

稲山会 通信

第25号

2012年7月1日発行

発行人：斉藤雄二 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

2012年 稲門山の会新年会報告

金子治雄（S41年卒）記

2012年、稲門山の会の総会・新年会が、立春を迎えた2月4日、大隈会館で盛大に行われました。

総会・新年会は50名のOB、OGのみなさまの参加を得てにぎやかに行われましたが、今年も大分から廣瀬OB、諏訪から金子（弘）OB、那須から鈴木（精）OBが駆けつけてくださいました。また上田、坂本、古林、弘海の4人のOGの方々が出席され場が華やかになりました。

今年は例年行う山の歌の歌唱はとりやめましたが、世代を越えて和気あいあいの歓談の内に、あっという間の3時間が過ぎてしまいました。



▲上田会長の挨拶



▲OGの方々

出席者（卒業年度、会員番号順）

33・34・35年卒 高橋、上田、小島、宮野 各OB、上田、坂本 各OG
 36年卒 宮沢、清水、廣瀬、西山、荒川、山本（貴） 各OB
 37年卒 加納、東、恩田、金子（弘）、鈴木、篠原、村田、打矢 各OB
 38年卒 宇野澤OB、古林OG、栗又、松村 各OB、弘海OG、白倉、吉田 各OB
 39年卒 秤、磯部、三宅 各OB
 40年卒 田野辺、笠原、鈴木（精）、関根、山崎、斎藤（洋）、長谷川、井村 各OB
 41年卒 斉藤（雄）、金子（治） 各OB 42年卒 松浦OB 43年卒 佐久間OB
 45年卒 斎藤（延）OB 46年卒 島田、新井、福田 各OB 47年卒 豊田、林 各OB
 48年卒 松村（幹）OB 49年卒 常数OB

計50名

会員近況報告—2012年新年会返信はがきから—

役員会

*清水正昭(S33) 昨秋、喜寿を迎えたので孫2人を連れて妙高、黒姫と並ぶ飯綱山（1917.4m）に記念登山をしました。今年は2年振りに唐松から五竜岳を目指しますが、体力とバランス感覚の減退から完登できるかどうか、自信は半々です。 *納見明德(S34) 今冬の佐渡は気温氷点下。

雪が降り続いています。五十肩の変調で神経性症状が回復せず欠席します。稲山通信の「わが忘れがたき山行」を楽しく拝見しています。(納見OBは2月10日に逝去されました。合掌)。*西出厚生(S36) 和田先輩との山行が(特に南ア光岳)一番の思い出です。(和田先輩が)ご出席されましたら宜しくお伝えください。*小島閑(S35) 腰の調子が良くないのですが、月2回の山行を続けています。昨年夏は37年ぶりにカナディアン・ロッキーを再訪。今回はフラワーライトトレッキング。のんびり歩いてきました。*大谷純通(S35) 田舎生活と云ってもそうのんびりもしてられません。山登りも月3~5回のペースでやっています。今年の新年会も残念ながら欠席となります。諸兄によろしく。*宮野準治(S35) 山は登るものか、見るものかという禅問答みたいなこともなくなり、今はイタリア・オペラとワインに全財産(?)をつぎこんでいます。皆さんと乾杯をすることの喜びを今から嬉しく思っています。*吉澤章仁郎(S35) 元気です。今年は出席の予定でしたが、結婚式と重なり、皆さんとの再会できず、残念至極です。稲山会通信の「わが忘れがたき山行」を楽しく読ませていただきました。山の会OB諸兄は実にユニークな、個性溢れる山行を実行していて感心しています。*堀正彦(S36) ニッポン・アクティブライフ・クラブというボランティア団体に入って高齢者の相互助け合い活動に励んでいます。皆様によろしく。*清水保宏(S36) 昨年は立山、八ヶ岳(赤岳)他に登りました。また「日本列島・島最高峰ベストテン」を登頂すべく御蔵島の御山(851m)に登りました。残りは八丈島(八丈富士)だけになり、今年の目標としています。*広瀬舜一(S38) お役目ご苦労様です。感謝あるのみ。みなさんと山行やハイキングに行く気力も体力もあるのですが、まだ現役の社長をやっていますので、そこまで時間が取れません。挑戦中の百名山も本橋、笠原、池田、打矢氏等々のご支援を戴いて、残り五座となりました。今年中には74才で完登の予定です。一度九州で総会をやりませんか・旅行を兼ねて湯布院でも。*梅田浩美(S37) 「観仏三昧」「健康ゴルフ」に浸っています。心筋梗塞になり、バイパス手術後は山登りが全然駄目になり、ゴルフがやっとで、今は仏像鑑賞に力が入っています。*打矢之威(S37) 相変わらず日本とポートランドの会社を行ったり来たりしています。今年は100名山最後の天城山に登る予定です。後はオーストリアのトレッキング、ヒマラヤのトレッキングを計画しています。今年も宜しく。*小久保雅代(S38) 住所が変わりました。〒399-9301 長野県北安曇野郡白馬村北城5823-1-501 *松村啓之亮(S38) 昨年はなんとも氣勢のあがらない一年でした。山登りも低調でした。今年は体力と実力に合った山を目指します。*弘海都子(S38) 皆様お元気のことと思います。今回もすいません。ご出席の皆様おひとりおひとりにとって今年もよい年となるよう、いのりあげます。*小林伸吉(S39) 最今は往年の藪漕ぎ登山が懐かしく、薪集めが楽しくてチェーンソーを振り回す近況です。*中込治文(S39) 会社経営から完全に引退し、最近はお絵と仏像彫刻入門。日暮れて道遠しの心境です。*井上昌代(S40) 12月は北海道キロロで初滑り、2月にはツェルマットでのスキーの予定と、元気に遊んでいます。新年会・残念ですがご盛会をお祈り致します。*長谷川徹(S40) 元気に動き回っています。昨年は大震災や悪天候で山は少な目でしたが、和賀、白砂、岩菅、八海山、白石山、八ヶ岳、仙丈、有明、奥大日、荒島等に登ってきました。*松浦(山本)正道(S42) 相変わらず元気に山に登っています。昨秋はカナダにオーロラ見物とトレッキングに行ってきました。*佐久間正昭(S43) 山のトレーニングのつもりでいたマラソンにはまっています。毎年、この新年会の翌日が地元浦安でのマラソン大会ですが、レースは成り行きで、この新年会が優先です。*上原敏行(S43) 昨年10月に白馬地方に旅行したついでに八方尾根より唐松岳に登り、剱、立山等を一望してきました。今年は縦走もしてみたいと思っています。*田辺清(S45) 昨年韓国より帰国し、現在、未だ荷物が着かず落ち着きません。落ち着いたら、先のことを考えようと思っています。*福田榮一(S46) 昨年、赤岳と一緒に登った先輩方に(新年会で)お会い出来ることを楽しみにしており

ます。＊森逸岳(S47) 昨年10月の「八ヶ岳キャンプ」の折に皆様にお会いできて嬉しかったです。観光バス会社に就職して3年になります。東京にもお迎えに行きますので、どうぞご利用下さい。マイクロバスから60人乗りまで用意できます。＊常数英昭(S49) 久しぶりに出席させて頂きます。宜しくお願い致します。＊小竹正雄(S50) 昨年7月の誕生日を迎え還暦となりました。5月には一足早く県を退職し、現在日本赤十字社福井県支部に務めています。10月初め、久しぶりに白山に日帰りで登ってきました。これから少しずつ山に登っていこうと思っています。＊柴原至(S52) 昨年2月に久しぶりに同期が集まりました。上田代表、倉本氏にも参加いただきました。その1ヶ月後大震災がありました。茨城県も被害を受けましたが、幸い我が家及び会社には大きな被害はありませんでした。その後建築工事が大きく遅れ気味で、今現在、医療モールの企画建設を行っていますが、工期がタイトで苦労しています。＊里方昭彦(S58) 都合により参加できません。OBの方々の活動には、いつも感心しております。＊四倉弥生(H3) 大学を卒業して20年経ちました。あの頃自分が40代になるなんてイメージできませんでしたが、なってみると気持ちは変わっていないのに、でも確実に以前と違う…。最近行くのは高尾山。それも往復リフト使用という情けない山行です。

投稿「韓国 北漢山登山」

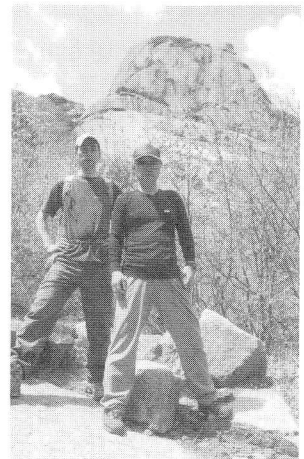
西山一夫(S48年卒) 山口県山岳連盟 副会長

韓国の山に初めて行ったのは33年前の夏。所属する宇部山岳会の30周年記念登山を任されたときである。うだるような暑さの中、雪嶽山国立公園の鬱山岩(ウルサン)でRCを楽しんだ後、1707mの頂上を踏んだのが最初であった。

その後、韓国の山に特別興味を持ったわけではないが、15年くらい前から年齢とともに高い山が苦になり始め、山から遠ざかり始めた頃に、韓国本土で一番高い、智異山1915mに韓国の友人と一緒に登る機会があった。これを契機に、韓国の山にとりつかれ、韓国の国立公園の1000m以上の山を全部登ろうと計画、休みごとに、年4から5回は通うようになった。最初のパートナーは、慶尚南道道庁山岳部である。いくつかの山で合同登山をした後は、韓国語の勉強をしながら、自分達で登山計画を作り登山をすることになった。特に冬の寒さは尋常ではなく、低い山でも滝が凍りアイスクライミング出来るという好条件でもあり、若手のトレーニングにも良い山がたくさんある。そのうち、1000m以下の道立公園に手を広げハイキングを楽しんできた。

しかしながら、仕事が忙しくなり、最近では年1回の韓国登山が関の山。

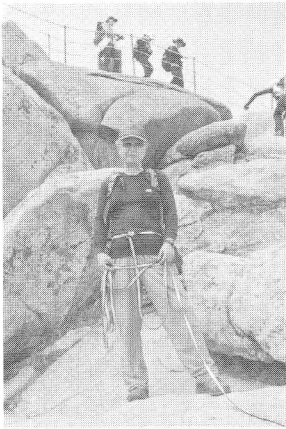
新井先輩から話があった時もお断りをしようと思っていたところ、5月2日～5日に山口宇部空港から仁川国際空港にチャーター便を飛ばすことが決定。仕事も兼ねてソウルに行き北漢山に登ることにした。北漢山国立公園は1983年に指定され、首都圏1500万人の市民の楽しみ場であり、大自然が残された理想的な憩いの場でもある。又、ここは、「仁寿峰」という、韓国最大の岩登りの



▲北漢山 西山OBと同行者



▲北漢山 頂上にて全員集合



▲北漢山 西山OB

メッカでもある。数年前の冬に行ったこともあり、地理感もあり、5月は花もきれいに咲きハイキングには最高の山ということでここに決定。メンバーは宇部山岳会、宇部市役所の山愛好家合計14人である。最年少は中学2年生の女の子。最年長は勿論私。ガイド兼務。

5月2日 山口宇部空港から約1時間5分、韓国仁川国際空港に到着。東京に行くのと同じ時間である。

5月3日8:00 ヨイドのホテルから地下鉄4号線、9号線でスウの駅まで。

ここからバスで牛耳登山口へ。約2時間の移動。大人数の移動は疲れる。ガイドをするにはいささか語学力が不足。登山口のインフォメーションでコースを再確認。前回はタクシーでかなり上まで上がったが、今回はバスなので最初から歩き。

10:00 車道を15分位歩き、尾根にとりつく。天気は五月晴れ。整備された登山道で、新緑のきれいな樹林帯の中、山桜、つつじがきれいに咲いており快適なハイキングである。ボッカのおじさんが30キロ位の荷物を担いで上がるのと、ほぼ同じペースでのんびりと登山。

途中、インスポンを右手に見ながら、12:00には白雲山荘に到着。昼食は、コンビニで買ったキムチのむすびとパン、ソーセージ。暑いので水分の補給を十分にするよう指示。インスポンには多くのクライマーが取り付いている。

時折、韓国語に交じって日本語も聞こえる。宇部山岳会からも時々トレーニングに来ており、日本からも近く良いゲレンデである。

昼食も早々と切り上げ、ここからはいよいよメインの大きな一枚岩登山。今回のメンバーはあまり登山歴もないので、ゆっくりと確実に。中学生の女の子は、元気はあるが若干の不安もあり、本人も登りたくないというので、ザイルをつけることとする。冬に来た時にはアイゼンを装着したが、今回はルートにある、鎖やロープを忠実に使いながら一步一步確実に。

13:00 白雲台ピーク(836.5m)に到着。ソウル市内が一望できる素晴らしい眺めに全員感激。平日にも関わらず、頂上は大賑わいでゆっくりは出来ない。記念写真を取り早々に下山開始。

下りは慎重に、滑落したら真逆さま。久しぶりに握るザイルの感触を楽しみながらコルに到着。ザイルを外す。そういえば、オーストラリアのエアーズロックもこんな岩山だった。あの時は娘を連れていたので、ザイルをつけたら、他の観光客から感心されたのを思い出す。

ここから、時間があれば城壁をめぐる縦走コースを考えていたが、岩場の緊張と暑さがこたえたようで、皆さん少々疲れ気味。安全も考え、止むを得ずコースを短縮し、龍岩門経由で最初の登山口に向けて下山することとする。

「この北漢山城の戦略的価値は、三国時代から認められてきたが、朝鮮は壬辰の乱や丙子の乱による大きな国難を受けて初めて本格的な築城論に入った。

壬申の乱が終わる頃、1596年に倭国の再侵攻に備え築城の計画もあったが、条件が良くなく中止になり、最終的には1711年4月3日に築城工事が始まり6ヶ月後に完成した」

本来なら、このようなうんちくを語りながら歩きたかったがやむを得ない。

ここから一気に急な沢筋を下ると、心地よいさわやかな風にも関わらず、日ごろの運動不足からこの程度の岩山でも足が痛いのが情けない。

15:00 無事下山。1100年前、新羅の時代に創建された、大韓仏教の道ソン寺で日ごろの行いの懺悔をする。後は、ビール、マッコリで乾杯、つまみはキムチとパジョン。再びバス、地下鉄を乗り継ぎヨイドのホテルまで電車の旅。韓国の山に触れ、文化、人に触れ、食を楽しんだ旅であった。

投稿 「山の会の思い出」

豊田紳二 (S47年卒)

〈山の会の理念〉 創立五十周年記念誌「やま」に載っている山の会の創立理念を読み驚きました。

「研究性」と「大衆性」を謳って設立され、「従来の山岳部に見られるような選手養成の機関ではない」、更に「『どこか特定の山を年間計画の最終目標にして、全会をあげてこれに総力を結集する方式をとるものではない』ことを基本方針とするものであった」とのことです。私が山の会に在籍した当時、新人合宿、夏合宿、雪上訓練、冬・春の会山行があり、その間にRCT、涸沢や旧人合宿がありました。積雪期の対象の山域はほとんど槍・穂高、後立山に偏っていました。設立当初の方針に反し、最終目標の冬及び春の会山行を念頭に置きながら年間の山行を行なうというような雰囲気がありました。現役の会員数が十数人と少なく、時間も四年間と限られているとはいえオールラウンドな山登りを行えなかったという反省があります。

〈前穂北尾根・至福のビバーク〉 現役二年の春合宿の後、同期の森田と三月末から四月初めにかけて前穂の北尾根を計画しました。なかなか山行許可が下りず、コーチ会に呼び出され「一週間分の食料とガスを予備として携行する」という条件付きでようやく許可が下りました。

五月の連休や夏には賑わう涸沢も私達二人だけの世界でした。早朝、涸沢から五・六のコルに上がり、ルートを間違えて四峰頂上の手前で奥又白側に迷い込んで時間をロスしたこともあり、三峰の頂上でビバークすることになりました。ほとんど風もなく、ツェルトから顔を出すと安曇野の街の灯りが遠くに望まれました。夕食後に天気図をとると翌日は間違いなく好天、キスリングの中には一週間分の食料とガスがあり、夜更けまで二人で食べ続け、歌ったりしました。おなか一杯、暖かくてとても快適、至福のビバークでした。

奥穂経由で涸沢にたどり着き、「充実した登攀だった」と安心するのは早過ぎました。アプローチでスキーを使用した森田は涸沢への登りで雪面が見づらいので時々ゴーグルを外していたせいもあり雪目になっていました。翌日、彼は雪目の痛さで涙を流しながらスキーで涸沢を滑り降り、上高地、沢渡に戻りました。山では最後まで気を緩められませんね。

〈海外遠征〉 合宿では毎晩のように食後「お花畑で見る夢は遠いカンチェカマナスルか…」などと歌い（歌わされ？） ヒマラヤに太刀打ちできるのかなと漠然と考えるようになりました。また、雪上訓練ではアフリカ隊が使用したという大きなカマボコ型のテント、積雪期にはエクアドル・アンデス遠征隊が使用した冬用テントで生活しながら、海外遠征が身近に感じられる時もありました。

幸い、仲間に恵まれ、また諸先輩や家族に応援して貰って1971年にヒンズー・ラジに遠征し、残りあと三百米で敗退しましたが、充実した登攀活動を経験できました。卒業直後の1973年には、アンデス縦断登山隊に参加して、ベネズエラ及びコロンビアの山々に登ることが出来ました。

〈アンデスのコンドル狩り〉 アンデス縦断登山隊の解散後、私はペルー・リマ市の語学専門学校に通ってスペイン語を勉強していました。その時に日本からテレビの取材班がコンドル狩りの撮影に来て、通訳を頼まれました。

ブランカ山群の登山基地であるワラスの町で食料などの買い物をした後、一日歩いて尾根上の見晴らしの良い場所に到着、同行した地元のインディオ達が準備を始めました。まず大きな穴を掘り、食料や飲み物を入れた後に一人が入り、穴の上に



▲豊田OB近況 本年3月

木の枝や草、土を載せ、殺した子山羊をその上に置きました。子山羊を見つけて、食べに来たコンドルを穴の中に隠れているインディオが素手で捕まえるという方法です。コンドルの口ばしは大きくて、鋭くてとても危険ということでした。

カメラマン、もう一人のインディオと私達は数十米離れたブッシュの中にツェルトを張り、テレビカメラのセットをし、木の枝などでカモフラージュしました。用意万端、あとはコンドルが現れるのを待つだけです。翌日は何も起こりませんでした。二日目、遙か彼方に悠然と飛ぶ一羽のコンドルを見つけました。動物の死肉を探して遠くの谷に沿って上がり、暫くすると下ってきました。「あと二・三日で来るだろう」と言うインディオの言葉通り、徐々に近付いて来ました。四日目、コンドルが例の穴の上に舞い降りました。「やったかな!？」と思った直後、再び舞い上がってしまいました。飛び去る時、私達のすぐ近くを悠然と通り過ぎて行きましたが、翼を広げると二・三米はあり、とても大きくて威厳がありました。

何故、コンドルに逃げられたのか理由は分かりません。穴に隠れていたインディオは「お前らが動いたり、音を立てたりしたからだ!」と言っていました、当のインディオが寝ていたのかもしれませんが。ワラスの町で上等のピスコ（ブドウを原料としたペルーの地酒）を買おうとした時に、狩の時は寒いので上等な酒よりもAlcohol Puro（純粹のアルコール）の方が良いとのことで純度の高いアルコールを買って渡しました。四千米を越える高地、しかも土の中でアルコールを飲みながら一人で何日も寒さに耐えていたのです。

コンドルがやって来るのを待つ間、朝焼けと夕焼けが毎日とてもきれいに見えました。

〈むすび〉 山の会に入会し、同期の仲間や先輩、後輩に恵まれ、二度も海外に遠征することが出来ました。あれから四十年が経ち、ヒンズー・ラジの仲間だった須田、アンデスにご一緒した姫野先輩が亡くなられ、今年になって納見先輩が鬼籍に入られました。

「やま」14号と「創立五十周年記念誌」に森田のヒンズー・ラジ＜ツイI峰＞登攀記録が載っています。「やま」14号を受取った時にさっと目を通しましたが、私にとってこの登攀は今でも「まだまだ生々しく」、読む気にはなれませんでした。須田に対する供養(?)の意味も込めて、この記録を読んでみようと思っています。

最後になりましたが、支援して戴いた皆様に改めてお礼を申し上げます。

2012年 山とスキーの会「春の乗鞍高原スキー」の報告

新井昭夫（S46年卒） 記

恒例のスキーの会を乗鞍高原で楽しんできました。

日程：2月24日（金）19：00東京駅丸の内北口出発、現地「みたけ荘」着23：30

26日（日）「みたけ荘」発12：30、東京駅着17：00

参加者：市村夫妻、大国夫妻、三ツ木夫妻、上田、佐藤（嘉）、斉藤（雄）、新井他 計15名

25日（土）は気温が高く（朝8：00に2℃だった）湿った雪で重く滑り難かった。視界も悪く、最上部の、もしかゲレンデでは午後には2-3M先しか見えない。しかし、翌日26日（日）は前夜の冷え込みで雪が締まって、気温も下がり、風も無く、さらさら雪で格好のスキー状態となり、大いに楽しむことが出来た。

又、25日（土）の夕食後は、大国さんの友人で早稲田山岳部のOBの方が山の歌集をコピーして持参頂いたので食堂を借り切って山の歌の合唱を楽しむ事が出来ました。



▲全員集合

春のハイキング「大野山」の報告

幹事 齋藤延雄 (S45年卒)

松村幹雄 (S48年卒) 記

JR御殿場線と丹沢湖の間にある大野山(723m)は山頂に県営牧場が広がる牧歌的情緒と展望の良さで人気のある山です。当日は生憎の天候でしたが、昨年のハイキングが震災の影響で中止となったこともあり、小雨決行としました。上田代表夫妻他のOB12名に加え、先日勧誘した山の会新人のうち加藤洵さん(社会科学部1年)が参加してOB以上の健脚を見せてくれました。



▲全員集合

コースタイムを上回るペースで山頂に着いた頃、風雨は強まり気温も9℃まで下がりました。それでも山頂では丹沢の山並みと丹沢湖を観る事が出来ました。東屋で昼食後、山北駅まで下り、桜の湯に入って汗を流し、持ち込みのビール等で歓談しました。山北駅周辺の桜は満開で見事でした。天候や展望には恵まれなかったもののなごやかで楽しいハイキングでした。

新松田駅集合10:00-大野山登山口バス停着10:45、 発10:50-登山口11:15-大野山山頂
12:15、 発12:45-登山口13:30-桜の湯14:30

○参加者(敬称略) 上田代表夫妻、井村副代表、松村(啓)、笠原、金子、齋藤(延)、福田、豊田、松村(幹)、山本(達)夫妻、加藤 計13名

2012年秋のキャンプとハイキングのご案内 担当幹事 齋藤(S45年卒) 松村(S48年卒)

今年は久し振りに新入生の参加が見込まれる事もあり、昨年好評だった八ヶ岳山麓の千露里庵を再び借りる事にしました。静かな大自然の中で、BBQ・キャンプファイヤーを楽しみ、現役学生との交流も図りたいと考えています。

翌日は、有志による小海線沿線の山々へのハイキングも企画しています。日程等は下記の通りです。是非皆さまご夫婦で、お孫さんも一緒に参加下さい。

記

○日 程: 2012年9月22日(土)~23日(日)

○集 合: 小海線 甲斐大泉駅 9/22 15時21分(あずさ17号+小海線)

食料品の買出し係は11時34分(あずさ9号+小海線)でお願いします。

○交 通: 自動車 中央自動車道 長坂ICより20分(甲斐大泉駅前無料P有り)

電 車 中央本線 小淵沢駅経由 小海線 甲斐大泉駅

○宿泊所: 千露里庵 甲斐大泉駅から徒歩15分(林間で判りづらいので駅からご案内致します。)

○会 費: 男性3000円、女性2000円、学生・子供は無料(夕食・朝食・飲料・宿泊料)

○用 具: 洗面用具・懐中電灯・防寒着は各自持参下さい。

寝具数に限りがあり、寝袋と歌集の持参を勧奨。

○ハイキング 小海線沿線の山を、3グループに分かれて歩く予定です。

①グループ(天狗山 1882mコース) 所要時間 2時間

甲斐大泉駅→<JR>信濃川上駅→<タクシー>馬越峠→天狗山ピストン

②グループ(天狗山~男山 1851m縦走コース) 所要時間 5時間

男山から御所平経由で信濃川上駅に下山。

③グループ(御座山*オグラサン2112mコース) 所要時間 5時間

甲斐大泉→<マイカー>南相木村→登山口→不動の滝→御座山ピストン

○申 込: 担当幹事若しくは同年代の幹事(会員名簿1頁参照)の方々にご連絡下さい。

○連絡先: 齋藤延雄 T: 045-831-1792 E: yuiyui@zg7.so-net.ne.jp ケ: 080-4005-3934

松村幹雄 T: 03-3325-9695 E: mykof04@s5.dion.ne.jp ケ: 080-5175-9695

2011年度会計報告 (2011年1月1日～12月31日)

稲門山の会

単位：円

項 目	収 入	支 出	残 高	備 考 欄
前期からの繰越額(預金・現金計)			4,915,621	
2月の新年会の精算	127,145			
新年会費(6,000円×52名分)、年会費(4,000円×47人分)、大隈会館へ支払い372,855、会の補助60,855				
金融機関等の預金受取利息	1,142			
新年会費用の支払(大隈会館・ホテル) 372,855円・上記精算欄				
インターネット基本料+ホームページ		31,500		稲山会HP
東京都山岳連盟年会費		20,000		
役員会合席料		16,600		
稲山通信印刷費(1月第20号・7月21号の2回分)		288,645		印刷会社へ支払分
郵便代		8,400		新年会・各行事等の案内
振込手数料		1,575		
2011年度会費振込+αあり (99.25名×4,000円=397,000円)	397,000			新年会当日47名、 合計146.25名 年会費計 585,000円
事務局費用		100,000		
会費振込用紙印字費用		700		
収支合計	525,287	467,420	4,973,488	
項目別預金残高内訳書				
一般会計 郵便公社預金			2,480,150	通帳残高額を確認済
年会費入金振替郵便口座			428,600	通帳残高額を確認済
みずほ銀行口座			50,545	通帳残高額を確認済
特別会計 遭難対策費(郵便定期預金①)			1,000,000	通帳残高額を確認済
遭難対策費(みずほ銀行定期預金②)			1,014,493	通帳残高額を確認済
合 計			4,973,488	

上記の会計報告を致します。会計幹事：新井昭夫(尚、別途会計監事が銀行残高書と照合済です)

訃報：2012年2月10日に納見明德さん(S.34年卒)が逝去されました。2012年4月13日に篠崎貞雄さんが逝去されました。故人を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

5月の連休時には、白馬岳で6人の高齢者が遭難されるという悲しいニュースがありました。後半には、73歳の田舎のおばあちゃん(失礼かな)、渡辺玉枝さんがエベレストに登り、自己の女性最高齢記録を塗り替え、また竹内洋岳さんが、ダウラギリに登って、日本人で初めて8000m峰14座を完登したとの嬉しいニュースもあり、山がらみでは悲喜こもごもといったところです。明るい和製メスナー(と思われる)竹内洋岳さんについては、「初代竹内洋岳に聞く」という分厚い本があります。本と云えば、「山の会」OBで、現在の「山の会」会長でもある濱田政則・理工学部教授が、専門の地震防災工学の蘊蓄を傾けて「液状化の脅威」を岩波書店より出版しています。ご興味の方はご一読下さい。

齊藤雄二(S41年卒)記

